

氏名	村 松 友 義
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第2973号
学位授与の日付	平成8年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	循環, 呼吸, 免疫動態よりみた胸部食道癌に対する1期的手術と分割手術との比較検討
論文審査委員	教授 清水 信義 教授 中山 睿一 教授 平川 方久

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

循環、呼吸、免疫動態に関する種々のパラメーターを用い胸部食道癌における1期的手術10例と分割手術10例の術前状態、術後経過を比較検討した。

循環動態では、左室1回拍出仕事係数(LVSWI)-肺動脈楔入圧(PCWP)のグラフ上1期的手術例が術後2日目まで心機能低下を示したのに対し、分割手術例の変動は軽度であった。呼吸動態では、努力肺活量(FVC)、最大瞬間呼出流量(PEF)の術後の推移はいずれも分割手術例が有意に良好な回復を示した。免疫動態では、natural killer(NK)活性は1期的手術例では術後1週目に最低値となり以後徐々に回復していくのに対し、分割手術例では変動はほとんど認められなかった。したがって分割手術においては1期的手術と比較して循環、呼吸、免疫機能に対する影響を有意に軽減させることが可能であり、高齢者やpoor risk症例において有用な方法と考えられた。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は循環・呼吸・免疫動態に関するパラメーターを用い胸部食道癌の1期的手術と分割手術の術前状態、術後経過を比較検討したものである。循環動態では、左室1回拍出仕事係数(LVSWI)-肺動脈楔入圧(PCWP)のグラフ上1期的手術例が術後心機能低下を示したが、分割手術例の変動は軽度。呼吸動態では、努力肺活量、最大瞬間呼出流量の術後の推移は分割手術例が有意に良好な回復を示し、免疫動態では、natural killer活性は1期的手術例では最低値となった後徐々に回復するが、分割手術例では変動はほとんど認められなかった。結果、分割手術は1期的手術に比べ、循環・呼吸・免疫機能に対する影響を有意に軽減させることが可能で、高齢者やpoor risk症例において有用な方法との知見を得た。

よって、本研究は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。